

●国交省淀川河川事務所副所長 白波瀬氏との話し合い 12日 8項目について要望

4月の移動で着任された淀川河川事務所副所長の白波瀬さんは、里山の会が発足して5年が経過してNPO法人取得を目指して、「木津川の花ごよみ」を発行する時の木津川出張所の係長でした。その折に、全面的なご支援をいただきました。NPOの法人取得にもかかわっていただきました。里山の会活動をもっともよく理解されているお方です。その白波瀬さんに8項目について要望を伝えました。特に河川協力団体としての扱いに力点を置きました。河川事務所からは協力の結果報告の提出を求めてくるが、淀川事務所からの働きかけがないので、今後の連携についてどのような関係になっていくのだろうかと思いを投げかけました。話し合いの結果、里山の会が作業している希少植物の保全管理の場所や内容についての具体的な提示に基づいて検討することと、報告書提出の期日を5月末としました。少し前進したのではないかと期待しています。播川理事長と山村が出席しました。

●里山農園ナラ枯れ木の寸胴切り かなり進む 11日 チェーンソー目立ての腕が少し上がりましたが、簡単に太いクヌギが切りきれぬものにはなりません、少しずつ進歩しているように見えます。やっと半分近くの30cmのものが処分できました。残るは斜面に横たわっているものとなっています。梅雨までには片づけ、割り木にして整理整頓しなければと思っています。10号地の草を刈り取って作業場として集積する計画が持ち上がっています。どなたでも時間の許す範囲で寸胴切りを集めていただくとありがたいです。一輪車に乗せるのは足場や通路に無理がありますので、地面を転がして移動させる方法が最適のようです。よろしくお願いします。

●レンリソウ抜草作業実施される 14日 今年の開花は昨年とはかなり早いようです。14日に確認しましたらしっかり生育していました。しかし富栄養の様子が進みレンリソウは他の雑草と比べると埋没しているようです。したがってアカツメグサが勢力を伸ばし大きな群生となり一面を覆いつくしているようです。その合間に遠慮しがちに、ちらほら咲いています。目を凝らさなければ発見するのは難しいです。一輪でも見つけられると次々見分けられます。かつて2007年に鈴木由紀枝さんが木津川堤でアカツメグサの中に少し色の違ったものがあることに気づきレンリソウであることが判明しました。その後その場所でアクシデントが続きました。しかし昨年までは弱弱しかったけれど開花がありました。しかし昨年は出会うことがなくなり、大変心配しています。その後木津川堤防の別の場所で群生が発見されましたが、今年はすべてで小規模になっています。そのうち工事による危機的な状況から判断して、移植保存した場所では、今年かなり開花が見られるようになりました。もう少し繁茂してくると公開も可能ではないかと思えます。20日はレンリソウの観察会を予定しています。ご参加のメンバーを見て判断をしたいと思えます。

●里山農園周囲の春の花散策と観察調査実施 14日里山農園周辺の春の花散策を実行しました。ここは希少植物の宝庫、京田辺市の絶滅の恐れのある植物は木津川だけでなく里山にもたくさん存在しています。農園周辺にも、かなりのものを発見できます。植物の責任者の伊藤千恵子さんは150種の植物を確認されています。この春14日（日）の伊藤さんをはじめとして観察と調査では、農園の猪防御の枠内だけで、50種がありました。そのうち開花している30種の花の撮影ができました。これからさらに多くの花時期を迎えます。注意して撮影に挑みたいとのことでした。期待しています。

●木津川除草作業(6月中旬から7月)を前にして生育地確認の立会実施 15日は田中組3人、16日は松見組2人の参加がありました。里山の会から深田前理事長・播川新理事長をはじめ4~5人が参加しました。木津川下流部でのヤガミスゲやタコノアシは湿地帯の植物なので、除草範囲から離れていることがわかり、除草範囲から除外としました。城陽市域では新しい二つの地域を指定し春の除草作業を外していただきました。そしてタヌキマメの生育地の除草についても春は実施しないで生育を見守ることになりました。田中組さんはこの地域の担当が続き、通行人さんともすっかり顔なじみとなり、皆さんと話が弾む様子でした。

●魚とり世話人会議13日 強雨のため出席者無し 電話連絡あり 前夜から相当激しい雨が降り続きご参加があるのだろうかと気をもんでいました。定刻になってもそれらしき皆さんの姿が見えず、やはり影響があったようです。深田さん播川さんは連日のご出席で、ご苦勞でした。取組みの論議はできませんでしたが携帯電話が城陽市の方からあり、昨年参加して本日の打ち合わせには欠席するが、よい取組みなので協力するという返事をいただきました。これまでは事務局のメンバーが中心の取組みでしたが、今回自主的に協力者を外部から得られたということは非常にうれしいことです。地道な働きかけですが、引き続き取組みを継続したいと思います。

●琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 年度総会 13日枚方市民会館 結成して10年が経過して11回目の総会をかさねました。今年は瀬田川での7月23～24日の近畿水環境交流会や、鴨川納涼8月6・7日、淀川三川ふれあい交流会8月6・7日、第6回びわこ会議8月20日、第16回かわに学ぶ体験活動全国大会9月4日、京の川を映像で楽しむ一日11月13日ダオ第4回カヌーでつなぐ琵琶湖。淀川流域圏11月20～27日など数々の取組みを実施などの報告と予算決算の承認と、新年度方針と予算を決定した。基調講演ではダムのから見た防災など豊かな内容が報告された。

●除草実施場所の現地調査実施 草内渡しの浜 開橋 山城大橋 ワンドへの通路など16日

5月12日の淀川河川事務所副所長白波瀬さんとの話し合いに基づいて里山の会から提案する資料作りの測量を16日午後から深田さんで行いました。木津川マラソンの本部席の面積を計測すると8295m²もありました。魚とりの駐車場(高水敷)は9450m²)でした。渡しの浜(低水敷)は約10000m²でした。希少植物の保全草取り面積は5590m²、通路面積は29800m²、ワンド面積は25000m²ということが判明しました。毎年これだけの面積を何とか管理保全しているのです。

●竹門先生と打合せ 大聖牛(水制工)の設置を 今年はいこれまでの経験を踏まえて大聖牛の設置を実現の方向で準備を呼び掛けることで検討することになりました。10月7・8日、竹の伐採作業6mの竹蛇籠18本製作。10月20・21日、木津川にまず一基を設置し、次年度には今年の建設を踏まえて残る2基の設置を行い完成する計画です。これらは現在のところ予定ですから確実な実施計画というものではありません。これから関係団体との調整を行う詰めを図っていくことにしています。なお、今回は、すべての準備を里山の会が受け持つということは、かなり厳しいスケジュールで、かなりの力技(無理)がありましたので、この教訓を生かすことも話題になっています。諸団体の調整会議を開催することも必要と思われる。とにかくスケジュールの確定を周知徹底することだと思います。

●20日レンリソウ観察会 例年レンリソウの観察会は14日前後を予定していましたが、いずれも未開花で、時期が早かったり、ということでしたので今年は遅らせましたら、自然相手の取組みはなかなか難しいようです。いずれにしても開花が残ってくれることを希望しています。

●21日 竹蛇籠生き物観察会 昨年も行いました。今年も同時期に開催いたします。現地を確認しますと地形が大きく変化しています。地形の複雑化が進み、生き物も各種生育しているのではないのでしょうか、成果が期待できるのではないかと思います。講師の竹門先生は学会の天竜川での会議をキャンセルして木津川にお越しいただくことになりました。

●27日(土) 今年初めての魚とり 川の状況はどうでしょうか 大阪では、アユの遡上が80万匹と確認されているとの話を耳にしました。去年は30万匹というお話だったようです。10時開橋(橋下に集合)で試し取りを行います

●予告 里山農園 玉ねぎの収穫にご参加を 生育玉数は1000本植え付けました。収穫したその時点で、お持ち帰りください。販売数量は1000個なので、大量買い取りがありますと先着順ですので、品切れが予想されます。大量仕入れをご希望の場合はご連絡をお願いいたします 5月28日(日)午前10時から収穫作業を行います。販売価格は1玉大小関係なく30円とします。ほかにエンドウ豆やキヌサヤなど一袋100円で取り放題も予定しています。送迎バスも近鉄三山木から発車します。9時00分 9時30分 10時00分を3回予定します。(一人限度100玉)